

2019年7月23日

北広島市
市長 上野 正三 様

一般社団法人 北海道自然保護協会
会長 在田 一則
フォーラム野幌の森
代表 五十嵐敏文
北広島森の倶楽部
事務局 加藤 和子
北広島の自然を考える会
代表 三澤 英一

北広島市ボールパークへのアクセス道路に係わる要望書

きたひろしま総合運動公園線（仮称）の整備事業を進めるにあたり、下記の事項を検討し、「エコロード」に配慮した道路整備を行ってください。

説明

「エコロード」とは、エコロジー（生態学）とロード（道路）を融合させた言葉です。

近年、道路整備にあたっては、周辺の自然環境を適切に保全あるいは再生し、生態系全般との共生を図るとともに、積極的に緑の空間を創出し、動植物の生育環境を保全していくことが従来にも増して強く求められています。こうした要請に適切に対応するためには、道路の計画・調査から設計・施工・管理まで含め、自然環境の保全と調和を図るための道路整備の手法を検討することが必要です。すなわち、自然環境に関する事前の調査に基づき、豊かな自然を保全できるような路線の選定のほか、必要に応じた橋梁・トンネル構造の採用や、動物用の横断構造物の設置、表土の保全・活用などの道路構造の工夫を行うことが求められます。また、やむを得ず貴重な動植物種等の生息地を通過する場合には、周辺の自然環境の現状に配慮しながら、必要に応じ代替の環境整備（ミチゲーション）を行うことが責務です。

私たちは、『野生動物に対する道路横断施設の設置と事後調査に関する技術資料』（国土交通省 国土技術政策総合研究所，2014）などの資料により、エコロードについて学習しておりますが、きたひろしま総合運動公園線について、ここでは下記のことを要望いたします。

- ① 橋梁やボックスカルバートを多く設置する
- ② 侵入防止柵の設置は、景観に配慮する
- ③ 運転者への注意喚起
- ④ 側溝は、雨水の浸透が高い素掘り側溝とする
- ⑤ 法面緑化における表土の再利用、
- ⑥ 裏の沢川へ直接的に排水をしない
- ⑦ 街灯は設置しない
- ⑧ オーバーブリッジ（エコブリッジ）等の設置（対象はエゾリスなど）
- ⑨ 排水性舗装にする

- ⑩ 視認誘導標を工夫する
- ⑪ 電柱は設置しない
- ⑫ 道路管理で融雪剤散布はしない

現在予定されている道路は延長が2.8kmであり、道路ルートと地形から橋梁の設置が4ヶ所で合計310mが予定されています。先に挙げた『野生動物に対する道路横断施設の設置と事後調査に関する技術資料』には、「橋梁構造は、建設による自然の改変が少なく、本来の獣道等の移動経路を残すことが可能である。例えば、野生動物の移動経路として利用される機会が多い地形に、沢地や谷地形があり、特に沢部は水場としての環境をあわせ持つことから、可能な限り周囲の環境を変えないことが望ましい。このような保全上の優先度が高い場所の改変を少なくし、獣道等の移動経路を残す上で、橋梁構造は優れているといえる。」とあります。

当該道路整備事業を進めるにあたり、自然環境との調和及び野生動物の生活環境の保全を図るために、橋梁を現在より延長する等の見直しを行うことをはじめとして、先に挙げた諸項目を検討するように要望します。なお、「エコロード」に向けた検討は、特別天然記念物野幌原始林の指定範囲拡大の見通しであることも含め、当該道路周辺の自然環境保全に大きく貢献すると思われまます。

※なお、回答は適時に文書でお願いいたします。

取り入れることができない項目については理由・説明を付してください。

回答先

一般社団法人 北海道自然保護協会

060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5

info@nc-hokkaido.or.jp